

記 者 発 表 資 料

同時資料提供先

- ・高松サポート合同庁舎記者クラブ
- ・阿南市政記者クラブ
- ・池田記者クラブ

平成23年度 那賀川大規模災害危機管理演習（洪水・河道閉塞対応） の実施について

近年、観測史上の記録を上回る大雨や局地的な集中豪雨、地震等による洪水・高潮・土砂災害が発生しており、これまで以上に国や地方自治体等による迅速で的確な対応が求められています。このため、今回初めての試みとして、那賀川流域における大規模災害を想定した危機管理演習の実施にあたり、洪水対応演習と河道閉塞対応訓練を併せて一体的に実施します。

1. 開催日時 平成24年1月26日（木）9:00～17:00
（開場：8:30～、受付開始：8:35～）
2. 開催場所 〒774-0012 徳島県阿南市七見町下川田100-1
阿南市スポーツ総合センター
3. 参加機関 阿南市、那賀町、徳島県、徳島県警察、四国地方整備局、
那賀川河川事務所、四国山地砂防事務所
4. 演習項目
 - ①洪水対応演習（ロールプレイング方式）
 - ・水文情報や被害状況等の情報収集及び伝達
 - ・避難勧告、避難所開設等の対応
 - ・災害の危険性予測と予測に基づく判断 等
 - ②河道閉塞対応訓練（学習型訓練）
 - ・土砂災害緊急情報の受理及び周知対応
 - ・天然ダムの緊急調査、土砂災害緊急情報の通知及び周知対応
 - ・天然ダム応急対策及び監視観測対応 等

平成24年 1月20日
国土交通省 四国地方整備局

－問い合わせ先－

国土交通省 四国地方整備局 河川部 河川管理課

水災害予報センター 洪水予測専門官：うちやま としひろ 内山 俊浩

087-811-8320（内線 3522）

四国山地砂防事務所 副所長

：たけもと きんじ 武本 謹二

0883-72-5400（内線 204）

平成23年度 那賀川大規模災害危機管理演習(洪水・河道閉塞対応)【演習概要】

1. 演習目的

■那賀川流域を対象に、大規模災害における国と地方自治体との相互連携の強化及び防災担当者の危機管理対応能力の向上を目的として、ロールプレイング方式による洪水対応演習及び質疑応答による学習型の河道閉塞対応訓練を実施する。

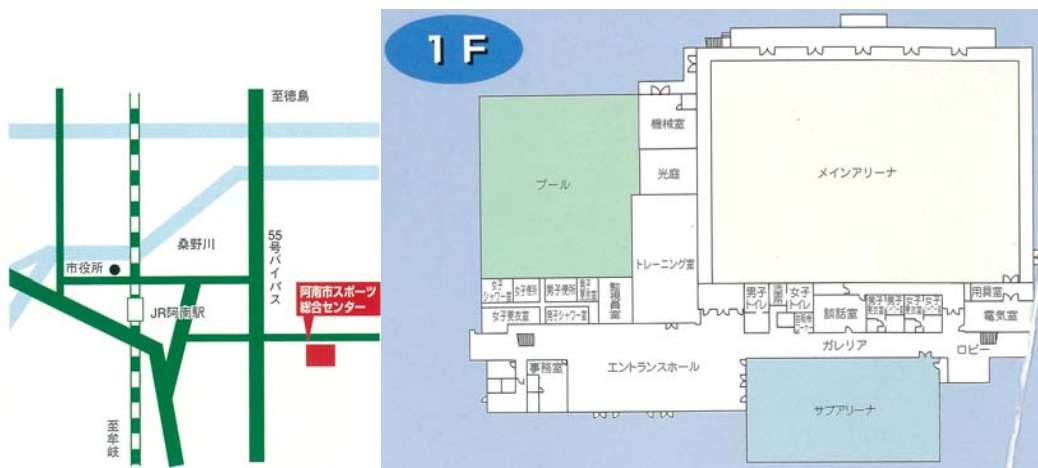
2. 演習開催日時・会場

■開催日時：平成24年1月26日(木) 9:00~17:00

■会場：阿南市スポーツ総合センター

○洪水対応演習：サブアリーナ、談話室

○河道閉塞対応訓練：サブアリーナ



3. 演習参加機関

■阿南市、那賀町、徳島県、徳島県警察、四国地方整備局、那賀川河川事務所、四国山地砂防事務所

4. 演習スケジュール

■開場：8:30~、受付開始：8:35~

開会・挨拶 9:00 - 9:05

洪水対応演習(サブアリーナ・談話室) 9:05 - 12:50

昼食 12:50 - 13:20

河道閉塞対応訓練(サブアリーナ) 13:20 - 16:50

全体講評 16:50 - 17:00

5. 演習対象地域

■対象自治体：阿南市、那賀町

■対象河川：那賀川、桑野川

■対象ダム：長安ロダム



平成23年度 那賀川大規模災害危機管理演習(洪水・河道閉塞対応)【洪水対応演習】

演習場面

■那賀川流域において大規模洪水が発生する「洪水予報発表(はん濫注意水位超過)後」から「決壊によるはん濫発生(計画高水位到達)後」までを想定し、被災前後の緊迫した災害対処活動を実施する時間帯とする。

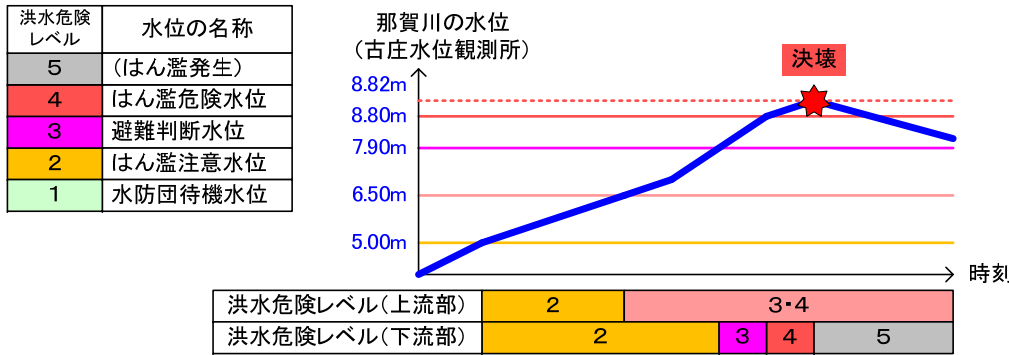


図 演習想定イメージ

主要演習項目

- 水文情報、被害状況等の情報収集及び伝達
- 水防活動、排水作業等の対応
- 避難勧告・指示発令、避難誘導、避難所開設等の対応
- 住民やマスコミに対する広報対応
- 関係機関と連携した災害対応
- 災害の危険性予測と予測に基づく判断
- 排水活動、堤防応急復旧等の対応

ロールプレイング方式の演習とは

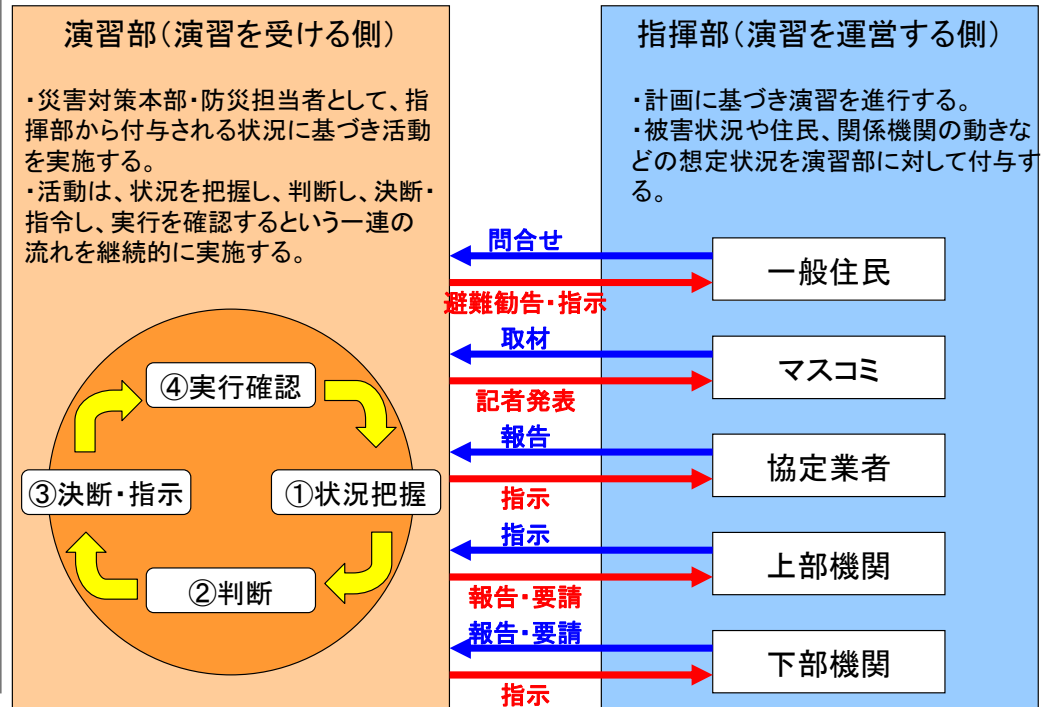
■大規模災害を想定した状況における**災害対策本部の運営等**について、効果的に訓練するための図上演習。

■演習を受ける側(演習部)と運営する側(指揮部)に分かれて訓練を実施。指揮部はシナリオを知っているが、**演習部はシナリオを知らされていない**。

■演習部は、指揮部の演じる役割(関係機関、住民等)から付与される情報を収集・整理・分析し、**状況判断の上、なすべき行動を決断・指示する**。



演習の進め方



平成23年度 那賀川大規模災害危機管理演習(洪水・河道閉塞対応) 【河道閉塞対応訓練】

訓練場面

- 那賀川流域において豪雨による洪水対応(演習)後に那賀川沿いの斜面が大規模に崩壊し河道閉塞が発生した後とする。
- 訓練する場面を発災後の時間経過毎に「ステージ」として設定し、各ステージ毎に進行する。
- 想定訓練ステージ
 - ① 初動対応確立ステージ(河道閉塞形成確認～緊急調査開始)
 - ② 土砂法改正※に伴う対応ステージ(緊急調査～土砂災害緊急情報通知～警戒避難)
 - ③ 応急対応ステージ(応急対応工事・住民避難等)

※「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」の改正(平成23年5月1日施行):大規模土砂災害に対する危機管理体制の強化

主要訓練項目

- 発災や被害対応に関する情報収集及び共有
- 避難勧告・指示命令、避難誘導、避難所開設等の対応
- 住民やマスコミに対する広報対応
- 関係機関と連携した災害対応
- 土砂災害緊急情報の受理及び周知対応
- 天然ダムの緊急調査、土砂災害緊急情報の通知及び周知対応
- 天然ダム応急対策及び監視観測対応

質疑応答による学習型訓練とは

- 学習型訓練は、形態として「進行役」と「訓練参加機関」とに分かれて行う。
- 想定した災害シナリオに則して状況付与を行った上で、「進行役」は「訓練参加機関」に、その対応について様々な「設問」をし、「訓練参加機関」は「回答」(相談しても良いが時間的余裕は与えない)する形式で進行する。
- これにより自機関の所掌事務だけでなく、他機関の取り組み状況を把握できることから、他機関を含めた全体的な防災対応について理解度の向上が期待でき連携の強化も図ることが可能。



進行役

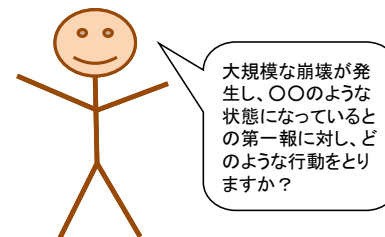


回答状況

訓練の進め方

進行者

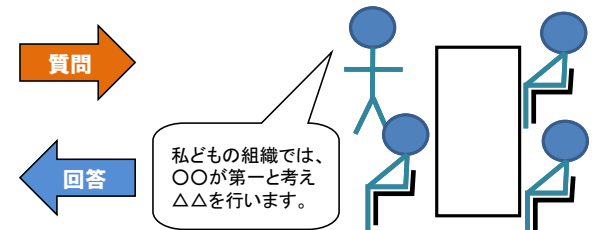
訓練参加の各組織をひとつの災害対策本部もしくは災害対策支部と見立て、それぞれに対し質問する。



回答者を特定して当てることはしない。あくまでも訓練参加組織に対して質問し、組織として回答してもらう。

訓練参加者

質問内容に応じて訓練参加組織内での回答者を決めて、発表する。



回答者は与えられた設問に対してその場で考え、すぐに回答してもらう(相談する等の時間的な余裕はない)。